

大東町における子どもの健康管理に関する調査

—乳幼児の養育者の事故に対する知識と予防について—

澤田和美，奥野順子，川口千鶴，石川眞里子，日沼千尋

要旨：大東町に在住する就学前の子どもを持つ全世帯を対象に、子どもの経験した事故、家庭で行っている事故予防のための安全対策、応急処置の知識、母親の育児負担感に関する調査を行った。有効回答は 462 世帯、乳幼児 655 名であり、子どもの事故経験や事故内容、養育者の応急処置の知識は他地域で行われた調査結果と同様の結果であった。また、事故内容のうち転倒転落の安全対策を実施している母親の子どもは、転倒転落事故の経験がない者が有意に多かった。一方、育児負担感を感じている母親は安全対策を実施していない者が多く、さらに子どもの事故経験が有意に多かった。

I. はじめに

近年、我が国は先進国の中で子どもの「不慮の事故」による死亡の多いことが指摘されている。平成 10 年度の死因順位でみると不慮の事故が 0 歳では 4 位、1～4 歳、5～9 歳、10～14 歳の年齢階級では 1 位であった。同年度の 1～4 歳の不慮の事故による死亡数 441 名、死亡総数の 25.8% を占めていた。さらに不慮の事故の死亡率 9.3 (人口 10 万対) であった。昭和 49 年における 1～4 歳の死亡率 39 と比較すると低下しているが、欧米諸国に比べて不慮の事故による死亡率は高い。また、入院に到る事故や外来受診する事故発生率はほとんど変化していない¹⁾。

これに対して、厚生省心身障害者研究「地域・家庭環境の小児に対する影響等に関する研究」及び「生活環境が子どもの健康や心身の発達に及ぼす影響に関する研究」において、「小児の事故とその予防に関する研究」が行われてきた。この結果から、小児の不慮の事故による死亡率は減少しているものの事故の発生は潜在的に多く、1～4 歳の死亡 1 件に対して発生は約 300,000 件であり、医療機関への受診が 3,600 件、家庭で処置が 100,000 件、無処置で経過観察が 190,000 件あると推測されている²⁾。また、事故はその他の疾病

と同様に、子どもの正常な発達や行動パターンを理解して的確に対応することにより予防可能であることも明らかにされている³⁾。

子どもは運動能力、認知能力の発達、また生活行動範囲の拡大によって、事故は種類と頻度が増えることが考えられ、従来の国民動態統計の年齢階級は 0 歳、1～4 歳、5～9 歳、10～14 歳では頻発する事故の種類を反映しにくいことが予測される。

また、子どもの事故発生と家庭内の生活環境要因、いわゆる事故多発児など子ども側の要因、養育者の知識など養育者側の要因との関連を検討した研究は散見される⁴⁾が、養育者の養育態度や心理状態との関連はほとんど検討されていない。親の養育態度や育児負担の感じ方、ライフスタイルなどは、近年大きく変わってきており、親の内的側面や社会的状況などが子どもの事故と関連している事が予測される。

そこで本研究では、小学校入学前の乳幼児を対象に、小児の生活行動範囲を考慮して年齢階層を生後 2～7 ヶ月、8 ヶ月～1 歳、2～3 歳、4～6 歳にして、家庭で発生する事故実態と、予防対策、応急手当の知識と親の育児負担感との関連を検討するものである。

Ⅱ. 研究目的

静岡県大東町に居住する就学前の乳幼児が経験した事故件数、および事故予防のための家庭での安全対策について、生活行動範囲を考慮した年齢階級で明らかにする。さらに、養育者の事故時の対処や応急処置の知識を明らかにして、乳幼児の事故予防対策の基礎資料とする。また、事故経験や安全対策、家庭での養育状況や母親の育児負担感との関連を明らかにして、事故発生の背景にある要因を解明する。

Ⅲ. 研究方法

1. 対象

平成12年7月現在の住民台帳を基に、静岡県大東町に在住する平成6年4月2日生～12年6月30日生の乳幼児1278名、及びこれらの乳幼児のいる全世帯951を対象とした。

2. 調査期間

平成12年9月7日に発送し、11月30日までの回収分を分析対象とした。

3. 調査項目

①乳幼児の経験した事故の有無と事故内容(転倒・転落、窒息、誤飲、熱傷、溺水、交通事故、はさんだ・切ったの7項目に分類)、②乳幼児の安全対策(事故内容7項目と基本的な安全対策)、③事故や応急処置の知識(田中97)³⁾、④家庭での養育状況や母親の育児負担感、⑤事故の経験から思ったことに関する自由記載、⑥世帯・住居状況であった。そのうち②乳幼児の安全対策は生活行動範囲を中心に発達段階を考慮して⁴⁾、2～7ヶ月児「自力で移動が可能になるまでの時期」、8ヶ月～1歳児「ハイハイや歩行により移動が始まる時期」、2～3歳児「自我や知的好奇心が強くなり行動範囲が広がる時期」、4～6歳児「幼稚園など家庭外での集団生活が営まれる時期」の年齢階級に分けた質問紙を用いた。(資料参照)

4. 調査方法

調査用紙は日本語で、記入は母親に依頼し、世帯ごとにアンケート調査を行った。複数の児がいる場合は乳幼児一人ずつを対象に①乳

幼児の経験した事故②家庭で行っている安全対策について尋ね、③事故や応急処置の知識④家庭での養育状況や母親の育児負担感⑤事故の経験から思ったことは、世帯ごとに尋ねた。アンケート用紙は各世帯ごとに郵送にて配布し、受取人払い郵送法で回収した。

5. 分析方法

調査内容のうち①乳幼児の経験した事故の件数及び内容②家庭で行っている安全対策③事故や応急処置の知識については、全対象で集計した。④家庭での養育状況や母親の育児負担感については、母親が記入した回答のみを集計した。なお、②安全対策のうち、「手の届かないところにおいていますか」という質問枝に対する回答を「置いている」「置いていない」としたため、回答の意味を逆に捉えた可能性があり、この文が入った質問枝は分析から除外した。

本稿では、経験した事故の有無と内容、安全対策、安全対策と事故の有無の関連、事故や応急処置の知識、母親の育児負担感、安全対策と母親の育児負担感との関連、事故の有無と母親の育児負担感との関連を検討した。分析は統計パッケージSPSS10jを使用した。

Ⅳ. 結果

1. 対象の背景

463世帯から回収された。このうち無効回答が1世帯であり、分析対象は462世帯であった。転居14世帯(該当乳幼児16名)を除いた回収率は49.4%であった。乳幼児655名分(内訳生後2～7ヶ月47名、8ヶ月～1歳129名、2～3歳208名、4～6歳271名)の回答が得られた。

家族数、母親の年齢、有職者率、住居形態、居住環境は表1の通りであった。子どもの主な養育者は、母親380名(82.3%)、母親とその他の養育者40名(8.7%)、母親以外の養育者の世帯は3.9%、不明24名(5.2%)で、詳細は表1に示した。

回答の記入は母親と指定したものの、実際の記入者は母親426名(92.2%)、父親5名(1.0%)、祖母1名(0.2%)、母親と父親3名、

表1. 対象の背景

主な養育者 n=462	母親	380 世帯	82.3%	
	母親とその他	40	8.7%	
	祖母	13	2.8%	
	祖父母あるいは祖父母とその他	5	1.1%	
	無回答	24	5.2%	
母親の就業 n=462	就業	179 人	38.7%	
	無職および未記入	283	61.3%	
母親の年齢 n=462 (平均 32.6歳)	17-19 歳	2 人	0.4%	
	20-29 歳	112	24.2%	
	30-39 歳	297	64.3%	
	40-46 歳	36	7.8%	
	無回答	15	3.2%	
家族数 n=462 (平均 5.2人)	2-3人	77 世帯	16.7%	
	4-6人	264	57.1%	
	7-9人	105	22.7%	
	10-11人	3	0.6%	
	無回答	13	2.8%	
回答者の居住期間 n=462	生まれたときから	116 人	25.1%	
	転居後	20年以上	12	2.6%
		10-19年	45	9.7%
		5-9年	101	21.9%
		4年以下	142	30.7%
	不明	3	0.6%	
	その他	39	8.4%	
無回答	4	0.9%		
住居形態 n=462	平屋一戸建て	59 世帯	12.8%	
	2階以上の一戸建て	316	68.4%	
	集合住宅	78	16.9%	
	無回答	9	1.9%	
居住環境 n=462	住宅地	232 世帯	50.2%	
	工業地	5	1.1%	
	商業地	14	3.0%	
	農業地	186	40.3%	
	その他	14	3.0%	
	無回答	11	2.4%	

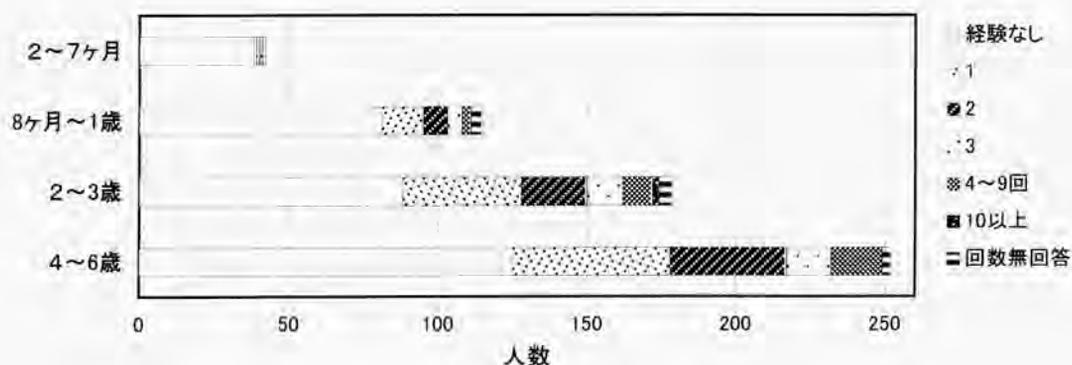


図1. 年齢階層別事故経験

表2. 安全対策

		R 逆説質問				無回答	上段 人数	下段 %
		いつも している	時々 している	あまり してない	して いない			
転落転倒	2～7ヶ月	お子さんをベッドに寝かせる場合、ベッドの柵は上げていますか。	24 51.1	2 4.3	2 4.3	1 2.1	1 2.1	17 36.2
		ソファやテーブルなどの上にお子さんを寝かせる場合、お子さんから目を離さないようにしていますか。	13 27.7	2 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 68.1
		お子さんをラックやベビーカーなどに乗せた場合、固定ベルトはしていますか。	35 74.5	3 6.4	4 8.5	4 8.5	1 2.1	0 0.0
		階段や玄関など段差のあるところからお子さんが落ちないような対策をしていますか。	50 38.8	17 13.2	25 19.4	22 17.1	1 0.8	14 10.8
8ヶ月～1歳	R	窓の側やベランダに踏み台となるようなものを置いてありますか。	12 9.3	4 3.1	26 20.2	84 65.1	3 2.3	0 0.0
		お子さんが使用する椅子やベビーカーなどは、ベルトをしていますか。	83 64.3	22 17.1	13 10.1	8 6.2	3 2.3	0 0.0
		階段や玄関など段差のあるところからお子さんが落ちないような対策をしていますか。	45 21.6	30 14.4	49 23.6	50 24.0	4 1.9	30 14.4
2～3歳	R	窓の側やベランダに踏み台となるようなものを置いてありますか。	13 6.3	10 4.8	65 31.3	118 56.7	2 1.0	0 0.0
		窓の側やベランダに踏み台となるようなものを置いてありますか。	23 8.5	11 4.1	70 25.8	166 61.3	1 0.4	0 0.0
4～6歳	R	お子さんに滑り台やブランコ、鉄棒など遊具の正しい遊び方を教えていますか。	79 29.2	137 50.6	48 17.7	5 1.8	2 0.7	0 0.0
		高いところから飛び降りるなど、お子さんが危険な遊びをしないように注意していますか。	103 38.0	139 51.3	25 9.2	3 1.1	1 0.4	0 0.0
		食卓のテーブルクロスが動かないような対策をしていますか。	18 14.0	2 1.6	5 3.9	8 6.2	1 0.8	95 73.6
8ヶ月～1歳	R	ドアや扉がバタンと閉まらないような対策をしていますか。	36 27.9	19 14.7	38 29.5	33 25.6	3 2.3	0 0.0
		テーブルや家具の角にはお子さんがけがをしないような対策をしていますか。	15 11.6	9 7.0	40 31.0	64 49.6	1 0.8	0 0.0
		お子さんが犬などの動物に噛まれないように注意していますか。	89 69.0	12 9.3	17 13.2	10 7.8	1 0.8	0 0.0
		ドアや扉がバタンと閉まらないような対策をしていますか。	49 23.6	47 22.6	56 26.9	51 24.5	5 2.4	0 0.0
2～3歳	R	お子さんが犬などの動物に噛まれないように注意していますか。	108 51.9	55 26.4	24 11.5	16 7.7	5 2.4	0 0.0
		ドアや扉がバタンと閉まらないような対策をしていますか。	69 25.5	61 22.5	95 35.1	45 16.6	1 0.4	0 0.0
窒息	2～7ヶ月	お子さんの敷きふとんはかためのものにしてありますか。	40 85.1	6 12.8	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		お子さんをうつぶせで寝かせた時、お子さんの様子に注意していますか。	31 66.0	13 27.7	2 4.3	0 0.0	1 2.1	0 0.0
		授乳後はゲップさせたりして乳汁を吐かないように気をつけていますか。	27 57.4	12 25.5	8 17.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		お子さんのしているよだれかけのひもなどは、首がしまらないように気をつけていますか。	33 70.2	8 17.0	2 4.3	3 6.4	1 2.1	0 0.0
8ヶ月～1歳	R	お子さんのしているよだれかけなどのひもは首がしまらないように気をつけていますか。	81 62.8	15 11.6	20 15.5	7 5.4	6 4.7	0 0.0
		お子さんが食べる物はのどにつかえないように注意していますか。	110 85.3	17 13.2	2 1.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
誤飲	2～3歳	お子さんが鉛玉やビーナッツなどの豆類、こんにやくゼリーなどを食べる時は詰まらないように注意していますか。	116 55.8	48 23.1	36 17.3	3 1.4	5 2.4	0 0.0
		熱傷	2～7ヶ月	お子さんにミルクを飲ませる前に、ミルクが適温かどうか確かめていますか。	34 72.3	2 4.3	0 0.0	0 0.0
2～7ヶ月	R	お子さんを入浴させる場合、湯の温度が適温かどうか確かめていますか。	41 87.2	4 8.5	1 2.1	1 2.1	0 0.0	0 0.0
		お子さんを抱っこしている時、あなたが熱い物を食べたり、飲んだりしますか。	0 0.0	7 14.9	11 23.4	29 61.7	0 0.0	0 0.0
		やけどの原因(アイロンやポットなど)になるものがお子さんのそばに置いてありますか。	1 2.1	0 0.0	4 8.5	42 89.4	0 0.0	0 0.0
		8ヶ月～1歳	お子さんにミルクや食事を食べさせる前に食物が適温かどうか確かめていますか。	116 89.9	10 7.8	3 2.3	0 0.0	0 0.0
2～3歳	R	ストープやアイロン、ポット、炊飯器などはお子さんがさわれないようにしていますか。	110 85.3	9 7.0	9 7.0	1 0.8	0 0.0	0 0.0
		ストープやアイロン、ポット、炊飯器などはお子さんがさわれないようにしていますか。	129 62.0	40 19.2	28 13.5	9 4.3	2 1.0	0 0.0
		お子さんがコンセントをいたずらできないような対策をしていますか。	25 12.0	20 9.6	75 36.1	84 40.4	4 1.9	0 0.0
		花火で遊ぶ場合、お子さんのそばで安全な遊び方を教えていますか。	169 81.3	13 6.3	2 1.0	0 0.0	3 1.4	21 10.1
4～6歳	R	ストープやアイロン、ポット、炊飯器などはお子さんがさわれないようにしていますか。	136 50.2	46 17.0	68 25.1	20 7.4	1 0.4	0 0.0
		花火で遊ぶ場合、お子さんのそばで安全な遊び方を教えていますか。	239 88.2	26 9.6	2 0.7	0 0.0	1 0.4	3 1.1

		いつも している	時々 している	あまり していな い	して いない	無回答	質問に 該当せ ず
溺水	2～7ヶ月	46 97.9	0 0.0	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	8ヶ月～1歳	120 93.0	9 7.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
2～3歳	浴槽に残り湯をしている場合、お子さんが一人で浴槽に入れないような対策をしていますか。	50 38.8	13 10.1	7 5.4	9 7.0	0 0.0	50 38.8
	浴槽に残り湯をしている場合、お子さんが一人で浴槽に入れないような対策をしていますか。	57 27.4	22 10.6	32 15.4	22 10.6	5 2.4	70 33.7
4～6歳	お子さんがプールや川、池、海で遊ぶ場合、そばで安全を確認していますか。	183 88.0	10 4.8	3 1.4	0 0.0	3 1.4	9 4.3
	お子さんがプールや川、池、海で遊ぶ場合、そばで安全を確認していますか。	242 89.3	20 7.4	3 1.1	0 0.0	2 0.7	4 1.5

交通安全

2～7ヶ月	お子さんを自動車に乗せる場合、チャイルドシートは装着していますか。	35 74.5	5 10.6	2 4.3	5 10.6	0 0.0	0 0.0
	8ヶ月～1歳	115 89.1	11 8.5	1 0.8	1 0.8	0 0.0	1 0.8
2～3歳	お子さんを自転車に相乗りさせる場合、幼児座席のベルトははめていますか。	23 17.8	6 4.7	2 1.6	7 5.4	3 2.3	88 68.2
	お子さんを自動車に乗せる場合、チャイルドシートは装着していますか。	159 76.4	31 14.9	7 3.4	3 1.4	3 1.4	5 2.4
4～6歳	お子さんを自転車に相乗りさせる場合、幼児座席のベルトははめていますか。	53 25.5	20 9.6	13 6.3	15 7.2	3 1.4	104 50.0
	お子さんが三輪車に乗る場合、そばで安全を確認していますか。	127 61.1	38 18.3	9 4.3	0 0.0	4 1.9	30 14.4
4～6歳	お子さんを自動車に乗せる場合、チャイルドシートは装着にしていますか。	171 63.1	48 17.7	19 7.0	27 10.0	4 1.5	2 0.7
	お子さんを自転車に相乗りさせる場合、幼児座席のベルトははめていますか。	65 24.0	31 11.4	26 9.6	41 15.1	4 1.5	104 38.4
	お子さんが自転車に乗る場合、安全な乗り方を教えていますか。	169 62.4	73 26.9	9 3.3	1 0.4	4 1.5	15 5.5
	お子さんに信号の見方(意味)などの交通ルールを教えていますか。	156 57.6	107 39.5	4 1.5	1 0.4	3 1.1	0 0.0

基本

2～7ヶ月	おもちゃやベビー用品の安全性を確認していますか。	23 48.9	19 40.4	4 8.5	1 2.1	0 0.0	0 0.0
	お子さんを家に一人にして出かけることがありますか。	0 0.0	5 10.6	5 10.6	37 78.7	0 0.0	0 0.0
	お子さんを車の中に一人きりにすることができますか。	0 0.0	5 10.6	14 29.8	28 59.6	0 0.0	0 0.0
8ヶ月～1歳	お子さんの遊具や遊び場の安全性を確認していますか。	71 55.0	45 34.9	12 9.3	1 0.8	0 0.0	0 0.0
	お子さんを家に一人にして出かけることがありますか。	0 0.0	6 4.7	16 12.4	107 82.9	0 0.0	0 0.0
	お子さんを車の中に一人きりにすることができますか。	0 0.0	16 12.4	34 26.4	79 61.2	0 0.0	0 0.0
2～3歳	おもちゃの安全性を確認していますか。	54 26.0	91 43.8	53 25.5	5 2.4	5 2.4	0 0.0
	お子さんの遊ぶ場所の安全を確認していますか。	117 56.3	68 32.7	17 8.2	2 1.0	4 1.9	0 0.0
	お子さんを家に一人にして出かけることがありますか。	0 0.0	10 4.8	27 13.0	167 80.3	4 1.9	0 0.0
	お子さんを車の中に一人きりにすることができますか。	0 0.0	30 14.4	55 26.4	119 57.2	4 1.9	0 0.0
4～6歳	おもちゃや遊具の安全性を確認していますか。	56 20.7	132 48.7	75 27.7	5 1.8	3 1.1	0 0.0
	お子さんの遊ぶ場所は安全を確認していますか。	107 39.5	131 48.3	31 11.4	0 0.0	2 0.7	0 0.0
	お子さんを家に一人にして出かけることがありますか。	3 1.1	29 10.7	67 24.7	169 62.4	3 1.1	0 0.0
	お子さんを車の中に一人きりにすることができますか。	0 0.0	29 10.7	117 41.0	128 47.2	3 1.1	0 0.0

祖父母と父母1名(0.2%)、不明26名(5.6%)であった。

2. 乳幼児の事故経験と安全対策

1) 乳幼児の年齢階級別事故経験

医者の手当を受けたり、病院にはかからなかったが大きなけがや事故の経験ありと回答している2～7ヶ月児では8.5%であり、8ヶ月～1歳児では26.4%、2～3歳児では43.8%、4～6歳児では46.9%と高率であった。事故回数は図1のとおりで、最大回数は、2～7ヶ月児では5回、8ヶ月～1歳児では7回、2～3歳児では13回、4～6歳児では6回で、頻回に事故を起こしている子どもがいることが明らかになった。また、事故内容では、転落・転倒、はさんだ・切った、熱傷、誤飲の順で多かった。

2) 家庭で行っている安全対策(表2)

事故内容でみると、「転倒・転落」の安全対策については、「時々している」を含めて「している」は80%以上が実施していた。しかし、項目ごとでは、階段や玄関など段差からの転落予防については8ヶ月～1歳児では52%、2～3歳児では36%で共に低かった。

「はさんだ、切った」の安全対策は、8ヶ月～1歳児で「動物に噛まれない対策」が80%近いが、それ以外の項目の対策は各年齢階級で低かった。「角でけがをしない対策」は8ヶ月～1歳児で20%未満、「ドアや扉にはさまない対策」は50%未満であるが、年齢階級が上がると上昇していた。

「熱傷」の安全対策については、90%以上が行っていた。しかし「アイロンなどの製品にさわらない対策」は2ヶ月～1歳児では90%以上、2～3歳児では約80%、4～6歳児では70%未満であり、全く対策をしていないものは4～6歳児では7%みられた。また、2～3歳児で「コンセントでいたずらしない対策」をしていたのは21%のみであった。

「窒息」の安全対策は、いずれの項目も80～90%で行われていた。「よだれかけの紐が首に締まらない対策」は、2～7ヶ月児では90%近かったが、8ヶ月～1歳児では75%以下に

低下していた。2～3歳児では「誤飲」に対して80%以上が注意していた。

「溺水」の安全対策は、95%以上が対策をとっていたが、「お風呂の残り湯がある時の対策」は8ヶ月～1歳児では約10%、2～3歳児では約30%が実施していた。

「交通安全」対策は、チャイルドシートの装着をいつもしているものは、2～7ヶ月児では75%、8ヶ月～1歳児では89%、2～3歳児では76%、4～6歳児では63%であったが、「あまりしていない」を含めた「していない」は2～7ヶ月児では15%、8ヶ月～1歳児では2%、2～3歳児では5%、4～6歳児では17%であった。自転車の利用者は少なかったものの、「あまりしていない」を含む幼児用ベルトを「していない」は8ヶ月～1歳児では全体の7%、2～3歳児では13%、4～6歳児では24%であった。その他三輪車、自転車の乗り方、交通ルールについては90%以上が教えていた。

その他「基本的な安全対策」では、「子どもを家に一人で置いて出かける」ことが「時々ある」が2～7ヶ月児と4～6歳児では10%いた。「車の中に一人にする」ことが「時々ある」が2～7ヶ月児と4～6歳児では10%、8ヶ月～1歳児では12.4%、2～3歳児では14%であった。「おもちゃやベビー用品の安全性の確認をしている」は90%であったが、年齢が高くなるにつれて「いつもしている」が減少して、「あまりしていない」が増える傾向にあった。「遊ぶ場所の安全確認」は90%前後で行っていたが、「いつもしている」が2～3歳児では56%、4～6歳児では39%と低かった。

3) 事故経験と安全対策

安全対策を「いつもしている」「時々している」を併せた「している群」、「していない」「全然していない」を併せた「していない群」の2群に分けて、事故経験の有無との関連をみると有意差があった項目は以下であった。安全対策をしていた事故内容で、事故経験がなかったのは「転倒・転落」の、年齢階層が8ヶ月～1歳、4～6歳のみであった(表3)。

表3. 安全対策と事故経験

安全対策	転倒転落		はさんだ・切った		窒息		誤飲		熱傷		溺水		交通安全		基本				
	2ヶ月	8ヶ月	2歳	4歳	2ヶ月	4歳	2ヶ月	8ヶ月	2歳	4歳	2ヶ月	8ヶ月	2歳	4歳	2ヶ月	8ヶ月	2歳	4歳	
事故経験	7ヶ月	1歳	3歳	6歳	1歳	3歳	6歳	7ヶ月	1歳	3歳	6歳	7ヶ月	1歳	3歳	6歳	7ヶ月	1歳	3歳	6歳
事故経験 転倒転落	—	*	—	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
事故経験 はさんだ・切った	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
事故経験 窒息	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
事故経験 誤飲	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
事故経験 熱傷	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
事故経験 溺水	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
事故経験 交通安全	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
事故経験 すべて	—	*	*	—	—	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

* p<0.05

8ヶ月～3歳の「転倒転落」及び2～3歳「はさんだ・切った」の安全対策をしていたものは、事故内容すべてを含めた事故経験がないものが有意に多かった。一方、8ヶ月～1歳「はさんだ・切った」、2～3歳「窒息」の事故経験があったものは、基本的な安全対策をしていないものが有意に多かった。その他は安全対策と事故経験の有意な関連はなかった。

3. 住居形態状況と事故経験の有無 (表4)

住居形態、居住環境と子どもの事故経験は有意な関連はなかった。

4. 応急処置の知識

1) 養育者の応急処置の知識 (表5)

知識の正答率が90%近いものは「気管内異物」「熱傷」であったが、「タバコの誤飲」「鼻出血」が45%以下と低かった。その他に日常的な「高熱」「出血」は53%の正答率であった。また、「意識障害」47%、「呼吸停止」「心停止」は60%前後など急変時の対応は低かった。「溺れて心臓が止まったとき」は67%であり、日常で経験の少ない生命に関わると思われる4項目では50～60%で正答率であった。

2) 年齢階級別応急処置の知識

応急処置は世帯ごとに調査したが、どの年齢階級の子どもがいる養育者が応急処置の知識を持っているかを明らかにするため、子どもの年齢階級別に応急手当の知識をみた

(図2)。「意識障害」「呼吸停止」「心停止」「溺水による心停止」の生命に関わると思われる4項目は、子どもの年齢が高いと正答率は高くなった。またどうしてよいかわからない、回答者は第一子の養育者とは限らなかったが、2～7ヶ月児の養育者がいずれも多かった。「熱傷」「高熱」「出血」は、年齢階級による正答率の差はほとんどなかった。「タバコの誤飲」「鼻出血」は2～7ヶ月、2～3歳児の養育者の正答率が低く、さらに2～7ヶ月児の養育者はどうしていいかわからないが多かった。「気管内異物」は2～7ヶ月児の養育者では、正答率が最も高かったが、8ヶ月～1歳児の養育者は低かった。

5. 育児負担感

1) 育児負担感

家庭での養育状況や母親の育児負担感については、母親が主な養育者であり、母親が記入した回答のみを集計したため、分析対象は413名であった。どの年齢階級の子どもがいると育児負担が増えるかを明らかにするため、子どもの年齢階級で育児負担感をみると、図3の通りであった。

2) 事故経験の有無と母親の育児負担感

育児に対して肯定的と考えられる質問では、「はい」と「時々」を併せて1群にして、「いいえ」との2群間で比較した。負担感があると考えられる質問は「いいえ」と「時々」を併せて1群にして、「はい」との2群間で比

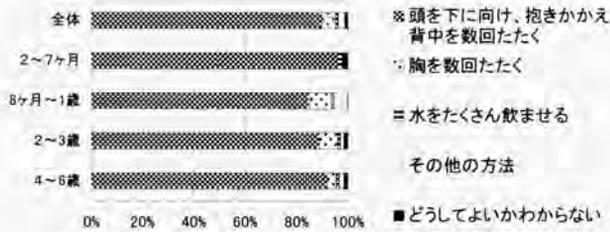
表4. 住居形態と事故経験

		年齢階層		2～7ヶ月		8ヶ月～1歳		2～3歳		4～6歳	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%		
全体	全体	47		129		208		271			
	事故経験あり	4	8.5	34	26.4	91	43.8	127	46.9		
	事故経験なし	38	80.9	81	62.8	88	42.3	125	46.1		
	無回答	5	10.6	14	10.9	29	13.9	19	7.0		
平屋の一戸建て	全体	7		13		34		33			
	事故経験あり	1	14.3	4	30.8	17	50.0	21	63.6		
	事故経験なし	6	85.7	7	53.8	11	32.4	10	30.3		
	無回答	0	0.0	2	15.4	6	17.6	2	6.1		
住居形態 二階建て以上の 一戸建て	全体	25		90		130		201			
	事故経験あり	1	4.0	25	27.8	51	39.2	88	43.8		
	事故経験なし	20	80.0	58	64.4	65	50.0	100	49.8		
	無回答	4	16.0	7	7.8	14	10.8	13	6.5		
集合住宅	全体	15		23		40		29			
	事故経験あり	2	13.3	5	21.7	20	50.0	14	48.3		
	事故経験なし	12	80.0	13	56.5	12	30.0	11	37.9		
	無回答	1	6.7	5	21.7	8	20.0	4	13.8		
住宅地	全体	21		65		111		130			
	事故経験あり	0	0.0	18	27.7	55	49.5	64	49.2		
	事故経験なし	19	90.5	40	61.5	45	40.5	56	43.1		
	無回答	2	9.5	7	10.8	11	9.9	10	7.7		
工業地	全体	1		1		2		2			
	事故経験あり	0	0.0	0	0.0	1	50.0	0	0.0		
	事故経験なし	1	100.0	1	100.0	0	0.0	1	50.0		
	無回答	0	0.0	0	0.0	1	50.0	1	50.0		
居住環境 商業地	全体	1		6		5		9			
	事故経験あり	0	0.0	1	16.7	3	60.0	4	44.4		
	事故経験なし	1	100.0	5	83.3	1	20.0	5	55.6		
	無回答	0	0.0	0	0.0	1	20.0	0	0.0		
農業地	全体	21		46		79		111			
	事故経験あり	4	19.0	10	21.7	29	36.7	51	45.9		
	事故経験なし	14	66.7	29	63.0	37	46.8	55	49.5		
	無回答	3	14.3	7	15.2	13	16.5	5	4.5		
その他	全体	2		7		4		10			
	事故経験あり	0	0.0	3	42.9	1	25.0	3	30.0		
	事故経験なし	2	100.0	4	57.1	2	50.0	4	40.0		
	無回答	0	0.0	0	0.0	1	25.0	3	30.0		

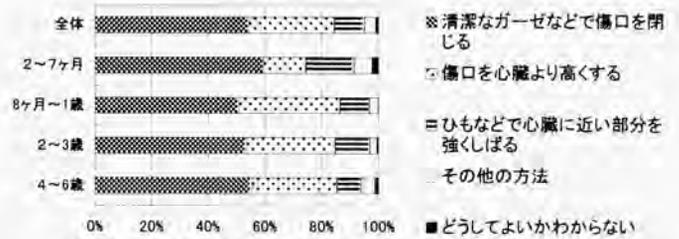
表5. 応急手当の知識

○は正答

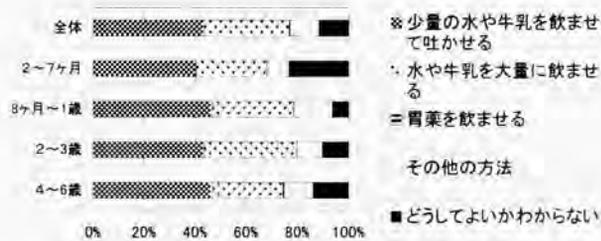
	人	%	田中97の正答率(%)
気管内異物 (N=461)			
○ 頭を下に向け、抱きかかえ背中を数回たたく	414	90	92.5
胸を数回たたく	25	5.4	
水をたくさん飲ませる	5	1.1	
その他の方法	12	2.6	
どうしてよいかわからない	5	1.1	
たばこの誤飲 (N=460)			
○ 少量の水や牛乳を飲ませて吐かせる	200	43	58.5
水や牛乳を大量に飲ませる	153	33	
胃薬を飲ませる	1	0.2	
その他の方法	53	12	
どうしてよいかわからない	53	12	
鼻出血 (N=458)			
○ 椅子などに座らせ、頭を高くして鼻をしっかりと押さえ圧迫する	204	44.2	46.9
仰向けに寝かせて鼻を圧迫する	154	33.3	
頭を後ろに反らせ首の後ろをたたく	60	13.0	
その他の方法	25	5.4	
どうしてよいかわからない	15	3.2	
熱 傷 (N=460)			
○ 水で冷やして清潔なガーゼをあてる	406	87.9	91.5
チンク油、アロエなどをぬる	14	3.0	
水ぶくれができたらずぶす	2	0.4	
その他の方法	37	8.0	
どうしてよいかわからない	1	0.2	
発 熱 (N=460)			
○ 頭や脇の下、股の付け根を冷やす	245	53.0	50.1
頭を冷やす	184	39.8	
布団をたくさん掛け厚着をさせる	4	0.9	
その他の方法	27	5.8	
どうしてよいかわからない	1	0.2	
出 血 (N=457)			
○ 清潔なガーゼなどで傷口を閉じる	248	53.7	47.2
傷口を心臓より高くする	138	29.9	
ひもなどで心臓に近い部分を強くしぼる	49	10.6	
その他の方法	18	3.9	
どうしてよいかわからない	4	0.9	
意識障害 (N=453)			
○ 頭を後ろに反らせあごを持ち上げる	217	47.0	46.5
頭の下に枕を置いて寝かせる	52	11.3	
頭を前に曲げる	10	2.2	
その他の方法	41	8.9	
どうしてよいかわからない	133	28.8	
溺 水 (N=460)			
○ すぐに人工呼吸、心臓マッサージ(心肺蘇生)を行う	309	66.9	75.1
水を吐かせる	90	19.5	
安静にさせて救急車を呼ぶ	29	6.3	
その他の方法	9	1.9	
どうしてよいかわからない	23	5.0	
呼吸停止 (N=459)			
○ 頭を後ろに反らせて口と口をつけて息を吹き込む	267	57.8	58.7
なるべく早く救急車に来てもらう	87	18.8	
胸を平手で押さえたり離したりする人工呼吸を行う	74	16.0	
その他の方法	13	2.8	
どうしてよいかわからない	18	3.9	
心停止 (N=459)			
○ 胸の中央部に平手を置いて規則正しく圧迫する	302	65.4	67.5
なるべく早く救急車に来てもらう	108	23.4	
胸を何度もたたく	15	3.2	
その他の方法	8	1.7	
どうしてよいかわからない	26	5.6	



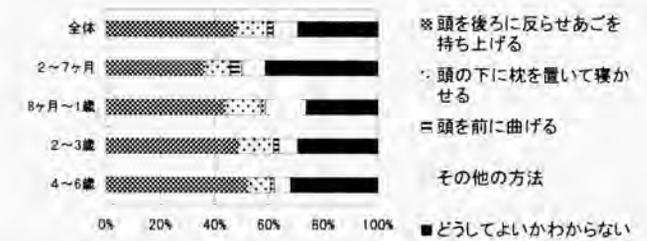
・お子さんが気管やのどに豆やボタンなどの異物をつかえたとき、最初に行うことは？



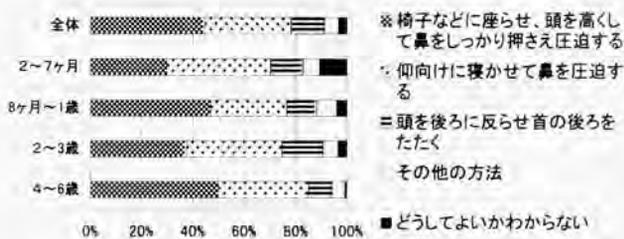
・お子さんがけがで出血したとき、最初に行うことは？



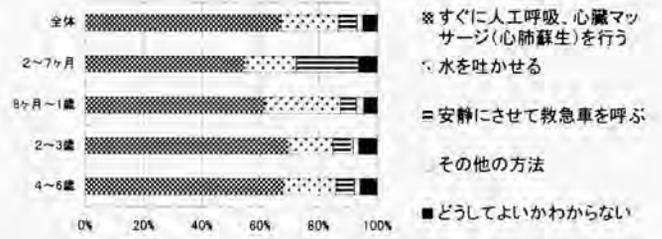
・お子さんがタバコを飲み込んだとき、最初に行うことは？



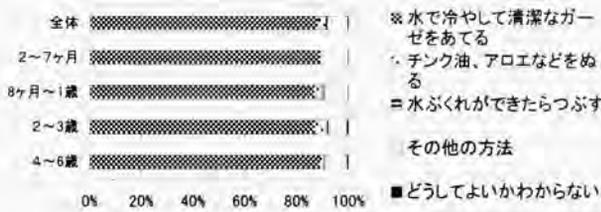
・お子さんに意識がなく痛みや呼びかけに反応しないとき、最初に行うことは？



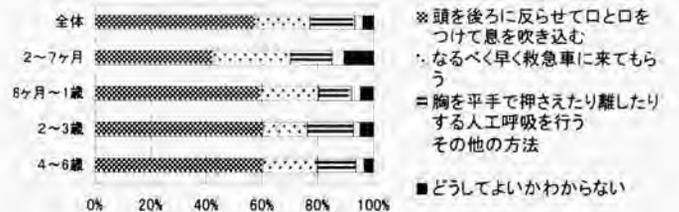
・お子さんが鼻血を出したとき、最初に行うことは？



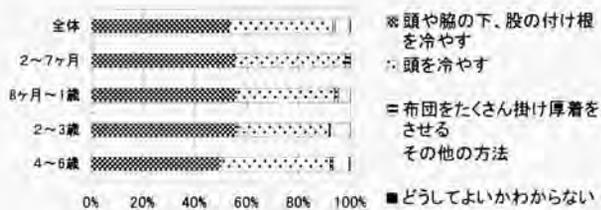
・お子さんが水に溺れて呼吸、心臓が止まっているとき最初に行うことは？



・お子さんがやけどをしたとき、最初に行うことは？



・お子さんが呼吸していないとき、最初に行うことは？

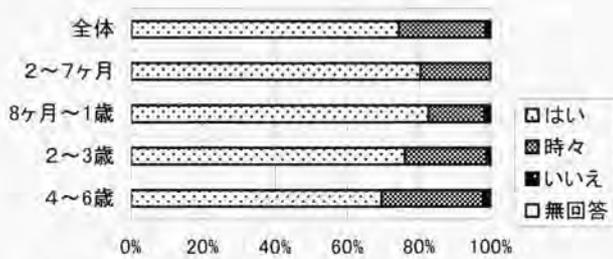


・お子さんが高熱を出したとき、最初に行うことは？

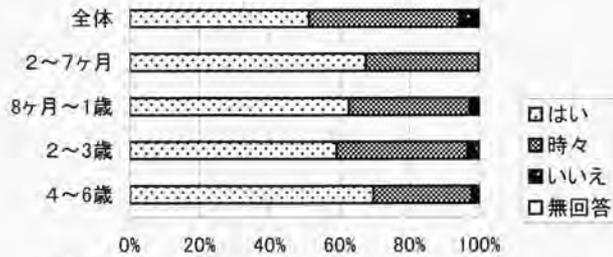


・お子さんの心臓が止まっているとき、最初に行うことは？

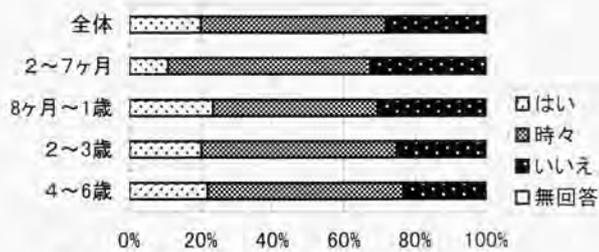
図2 年齢階層別応急処置の知識



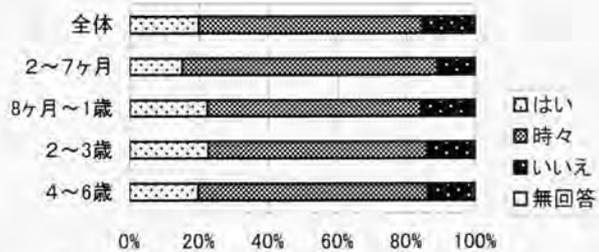
・あなたの家族は子育てに協力してくれますか。



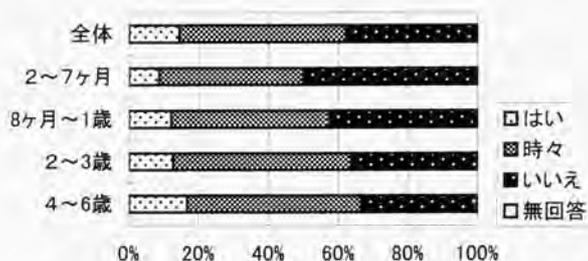
・子育ての方針が家族と合いますか。



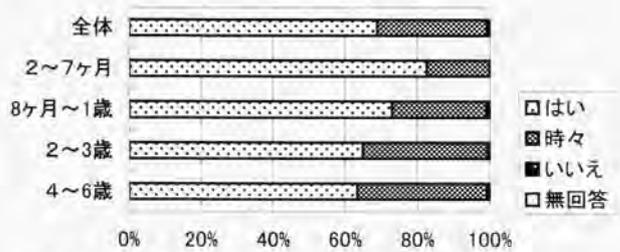
・あなたはお子さん達の世話が十分できないと思うことがありますか。



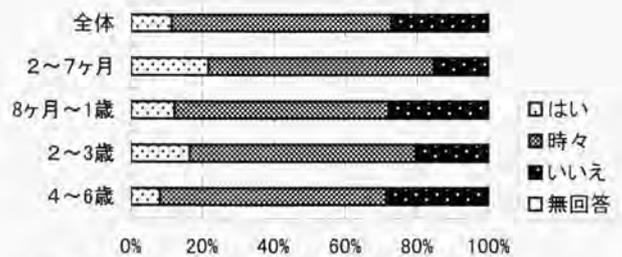
・あなたはお子さん達のこと、どうしたらよかわからないときがありますか。



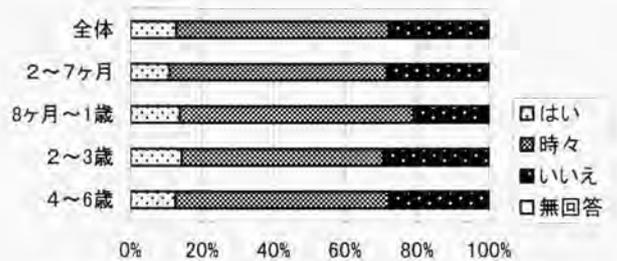
・あなたはお子さん達の世話をやきすぎると思いますか。



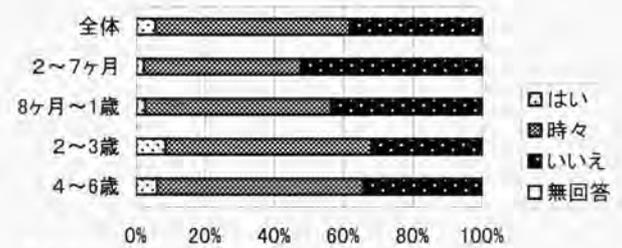
・あなたはお子さん達と一緒にいるときに心がなごみますか。



・あなたはお子さん達のこと、でくたくたに疲れますか。



・自分のやりたいことができなくて、焦りを感じることはありませんか。



・あなたはお子さん達をわずらわしいと思うことがありますか。

図3 年齢階層別育児負担感

較した。その結果は表6の通りであり、「家族は子育てに協力してくれる」と感じている母親の子どもは事故経験がない者が多く、「子どもを煩わしいと思うことがある」母親

の子どもは事故経験がある者が多かった。これは、全対象と2～3歳児の養育者では有意差がみられた。

表6. 事故経験と育児負担感

育児負担感	事故経験の有無					
	2～7ヶ月	8ヶ月～1歳	2～3歳	4～6歳	全体	
家族は子育てに協力してくれる			*		*	
子育ての方針が家族と合う						* p<0.05
子どもと一緒にいるときに心がなごむ						§ p<0.1
子どものことでどうしたらよいかわからないときがある						
子どもの世話をやきすぎる					§	
子どもをわずらわしいと思うことがある		§	*		*	
子どものことでくたくたに疲れる						
自分のやりたいことができなくて、焦りを感じる						
子どもの世話が十分できないと思うことがある						

表7. 安全対策と育児負担感

安全対策	転倒転落		はさんだ・切った		窒息 誤飲		熱傷		溺水		交通安全		基本		
	2ヶ月	8ヶ月	2ヶ月	8ヶ月	2ヶ月	8ヶ月	2ヶ月	8ヶ月	2ヶ月	8ヶ月	2ヶ月	8ヶ月	2ヶ月	8ヶ月	
育児負担感	7ヶ月	1歳	3歳	6歳	1歳	3歳	6歳	7ヶ月	1歳	3歳	6歳	7ヶ月	1歳	3歳	6歳
家族は子育てに協力してくれる															§
子育ての方針が家族と合う	*						*								
子どもと一緒にいるときに心がなごむ			*	§	*			*				§		*	*
子どものことでどうしたらよいかわからないときがある					*							*			
子どもの世話をやきすぎる							*								
子どもをわずらわしいと思うことがある					*					*	*	*		*	*
子どものことでくたくたに疲れる	*					*						*			
自分のやりたいことができなくて、焦りを感じる	*		*									*			
子どもの世話が十分できないと思うことがある								§							

3) 安全対策と母親の育児負担感

事故内容で分類した安全対策と、2群に分けた育児負担感で関連を見た(表7)。

「育児方針が家族と合う」2～7ヶ月の母親は、「転倒転落」「熱傷」の安全対策をとっている者が多かった。「子どもと一緒にいると心がなごむ」母親は、2～3歳では「はさんだ・切った」「熱傷」「一人で留守番させない」「車に一人でおかない」の安全対策をとっている者が有意に多く、4～6歳児では「転倒転落」「一人で留守番させない」「車に一人

でおかない」の安全対策をとっている者が有意に多かった。「子どもの世話をやきすぎる」2～3歳の母親は、「誤飲」の安全対策をとっている者が多かった。一方、「子どものことでどうしたらいいかわからないときがある」4～6歳児の母親は、「はさんだ・切った」「交通安全」対策をとっていない者が有意に多かった。「子どもを煩わしいと思う」母親は、2～7ヶ月児、2～6歳児では交通安全対策、2～6歳児を「車に一人でおかない」の安全対策、4～6歳児では「はさ

んだ・切った」「遊ぶ場所の確認の安全対策」をとっていない者が有意に多かった。「子どものことでくたくたに疲れる」母親は2～7ヶ月児では窒息及び4～6歳児では交通安全対策をとっている者が多かったが、8ヶ月～1歳児では転倒転落対策はとっていない者が有意に多かった。「自分のことができなくて焦りを感じる」母親は、8ヶ月～1歳児の転倒転落、4～6歳児の交通安全対策をとっていない者が有意に多かった。

V. 考 察

1. 乳幼児の事故経験の件数及び内容

本研究では、事故を「医者の手当を受けたり、病院にはかからなかったが大きなけがや事故」として、期間を限定せずに調査した。そのため、子どもの年齢が大きくなったほうが、経験した事故の件数は多くなった。事故内容では転落・転倒、はさんだ・切った、熱傷、誤飲の順で多かった。

保健所台帳をもとに6ヶ月から5歳までの子どもを対象として、1週間に限定して発生した事故を調査した結果⁹⁾では、事故多発年齢は1～2歳であり、外傷、打撲が多かった。同様に和歌山県内の乳幼児検診受診児の調査では12～17ヶ月に事故のピークがあり、外傷が多かった¹⁰⁾。また静岡県モデル地区で行われた調査では、1歳6ヶ月で事故が多く、事故内容は転倒転落が多発していた¹¹⁾。本調査もこれらの結果と同様の事故内容が多発していた。頻発する年齢については、今後、事故状況に関する詳細な記述回答の内容分析を行い、事故を起こした場所、原因、対応についても明らかにする必要がある。しかし、本調査は養育者の認知した大きなけがや事故であり、事故実態をそのまま反映しているものではないという限界がある。

事故経験の有無は、住居形態や居住環境とは関連がなく、また安全対策との関連も事故内容別に検討してもほとんど見られず、むしろ母親の育児負担感との有意な関連があった。

2. 家庭で行われている安全対策

安全対策は、おおむね実施されていたが「は

さんだ・切った」はやや低かった。2～3歳児に「コンセントでいたずらしない対策」が低かったのは、この年齢よりも低い年齢階級で行っている可能性も考えられた。また、「チャイルドシートの装着」は、あまりしていないも含めると、乳児前期と幼児後期では20%近くが装着を習慣化していない傾向にあった。

次に、事故内容のうち「転倒・転落」以外、安全対策が行われている内容は事故経験がないという結果は得られなかった。これは、事故経験があったため、安全対策をとった養育者もいることが予測され、回答した安全対策を事故経験の前と限定しなかったことが、安全対策と事故の経験の有意な関連がみられなかった原因とも考えられる。

安全対策も育児負担感との関連があり、育児負担を感じている母親は、世話をやきすぎる、くたくたに疲れるを除いて、安全対策をとっていない者が多かった。一方、子どもと一緒にいると心がなごむ、また家族が子育てに協力してくれるなど、子どもや育児を肯定的に捉えている母親は安全対策をとっているものが多かった。

3. 応急処置の知識

養育者の応急手当の正答率は、首都圏、地方都市等4市8地域2477名の0歳から6歳の子どもを持つ親を対象に実施した調査¹⁰⁾と比較すると平均的であったが、生命に関わる心肺蘇生法の普及は低かった。本対象の結果で他の地域と比べて正答率が低かったのは、「タバコを誤飲」「溺水」であった。また、同調査の正答率で、地域差が10%以上あり、啓蒙教育の機会に差があると考えられる「鼻血」「発熱」「出血」「意識障害」「呼吸停止」「心停止」の項目のうち「鼻血」のみ本対象では正答率が平均より低かった。

応急処置は、養育者や母親による世帯ごとの回答であるが、子どもの出生順位に関連がないこと¹¹⁾から年齢階級別に検討した。年齢が上がるにつれて正答率が高くなっていったが、「高熱」は4～6歳では正答率が下がり、子どもが高熱を出す機会が減っていることも

影響していることが考えられた。「鼻血」「誤飲」の正答率は8ヶ月～1歳で正答率が高く、この年齢では起こりやすいと養育者が考え、知識を持っていることも考えられた。応急処置に関しては子どもの出生直後からの教育の必要性が指摘されているが¹²⁾、本調査でも2～7ヶ月児を持つ養育者の応急処置に関する知識の普及は低く、今後積極的な教育活動を行い普及に努め、万一に備えて事故発生時の早期の応急手当につなげていく必要が示唆された。

4. 事故経験や安全対策に関連する要因

乳幼児の事故発生の潜在要因として、乳幼児自身の身体、知的、精神的条件、服装、環境が影響して危険な行動をとり、事故発生につながるというモデルをしている(須長・斉藤)。さらにこのモデルをもとに高野¹³⁾は、乳幼児自身の条件よりむしろ環境条件である養育者の要因が関与しており、親の性格、子ども観や子どもの生活の仕方、育児態度を養育者側の要因としてあげている。今回の結果から、母親の育児態度に関連する育児負担感が子どもの事故経験と、

安全対策に関連があることが明らかになった。事故は5～6割が予防可能であり、予防教育の必要性が言われている¹⁴⁾が、育児負担にも目を向けた事故予防対策が必要であることが考えられる。

VI. 結 論

本調査により、大東町内の乳幼児の事故経験、家庭で行っている安全対策、応急処置の知識の普及の程度が明らかになった。乳幼児の事故経験の有無と事故の安全対策は、母親の育児負担感と関連があり、育児負担感の軽減が事故予防となる安全対策の向上及び事故経験の減少につながる事が示唆された。また、応急処置は乳児前期の子どもを持つ養育者の正答率が低く、普及の必要性が認められた。本調査は回収率が低かったため、大東町全体に一般化することには限界がある。

謝辞

本調査にご協力くださいました大東町のみなさま、ならびに大東町保健福祉課のみなさまに深謝いたします。

引用文献

- 1) 田中哲朗, 岩坪秀樹他: 子どもの事故発生率と年次推移. 平成7年度厚生省心身障害研究 生活環境が子どもの健康に及ぼす影響に関する研究報告書, 98-101, 1996.
- 2) 田中哲郎: 我が国における小児事故. 保健の科学, 40(10), 764-769, 1998.
- 3) 前掲書 1).
- 4) 高橋種昭, 須永進他: 乳幼児の事故と安全教育ー親の養育態度と幼児の安全行動(2)ー. 日本総合愛育研究所紀要第27集, 27-36, 1991.
- 5) 田中哲郎: 子どもの事故とその予防に関する研究ー応急知識の普及度に関する研究ー. 平成8年度厚生省心身障害研究 子どもの健康に及ぼす生活環境の影響に関する研究報告書, 163-167, 1997.
- 6) 小林正子, 小林麻衣子: 発達段階と事故. 保健の科学, 40(10), 777-781, 1998.
- 7) 田中哲郎: 小児の事故とその予防に関する研究ー乳幼児の事故の実態に関する研究ー. 平成2年度厚生省心身障害者研究 地域・家庭環境の小児に対する影響等に関する研究報告書, 163-171, 1990.
- 8) 野尻孝子, 由良早苗他: 保健所における小児の事故防止活動の展開. 小児科診療 59(10):1625-1634, 1996.
- 9) 鶴田憲一, 望月みつ子: 子どもの事故防止のためのアンケート調査. 平成7年度厚生省心身障害研究 生活環境が子どもの健康に及ぼす影響に関する研究報告書, 148-152, 1996.
- 10) 前掲書 5).
- 11) 長村敏生: 小児応急処置に関する母親の知識. 小児外科, 32(5):506-511, 2000.
- 12) 前掲書 11).
- 13) 高野陽: 育児と安全対策. 小児科診療, 50(2):103-112, 1997.
- 14) 前掲書 7).